

環境・社会報告書 2017

Environmental & Social Report

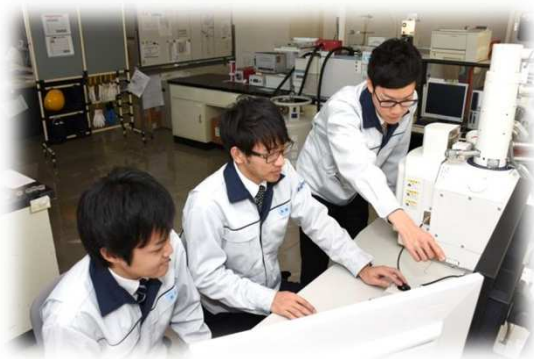
(2016年1月～12月)



Kijima

和の力をみんなで合わせ、世界を越えて行こう。

Beyond the World



目次 Contents

■目次

目次	1
社長メッセージ	2

■企業プロフィール

会社概要	3、4
主要製品	5

■環境側面

環境方針	6
環境マネジメント	7
環境保全活動	8
環境負荷の低減	9
地域環境	10
環境保全事例	11

■社会側面

CSR推進体制、リスクマネジメント	12
お客様とともに	13、14
社員とともに	15、16、17
国際交流	18
地域社会とともに	19

■環境データ

物質・エネルギー収支	20
P R T R対象物質収支	20
環境測定データ	21、22

対象範囲：小島プレス工業(株)
(本社・下市場工場、高岡工場、小島総合研究所、黒笹技術センター、
足助作業所)

対象期間：2016年1月1日～12月31日
(一部に、対象期間外の活動も含まれます。)

参考文献：環境省「環境報告ガイドライン(2013年版)」



取締役社長

小島洋一郎

【社是】



【長期テーマ】

人をつくり 人をまもる
対話と参加

■社長メッセージ

得意先では生産のグローバル化が加速し、国内3割、海外7割という体制に変わってきております。当社でも得意先のすぐ近くで生産するために、現地サプライヤーと連携するアライアンス体制の構築など、体制を整えてきました。また、新事業を生み出す活動、他社に先んじたIT、IoTを活用した仕事のやり方へと改善・改革・改造を進めております。

そのような中、今年は会社方針を『「チャレンジ」今までの積み上げを次の時代につなげる』としました。チャレンジのサイクルを回し、チーム小島が調和のとれた成長を重ねてまいります。また、厳しい状況の中でも収益が出せるよう世界一安いものづくりを進めていくことはもちろんのこと、「物の命を全うせよ」「古を生かす」といった創業の精神を持ち続けて環境活動を推進してまいります。

今後も皆様のご理解とご支援に感謝するとともに、皆様から信頼される企業を目指していきます。また、社員一人ひとりが切磋琢磨することで企業体質を強化し、家族・地域社会まで含めた『和』の具現化に精進していきますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

会社概要

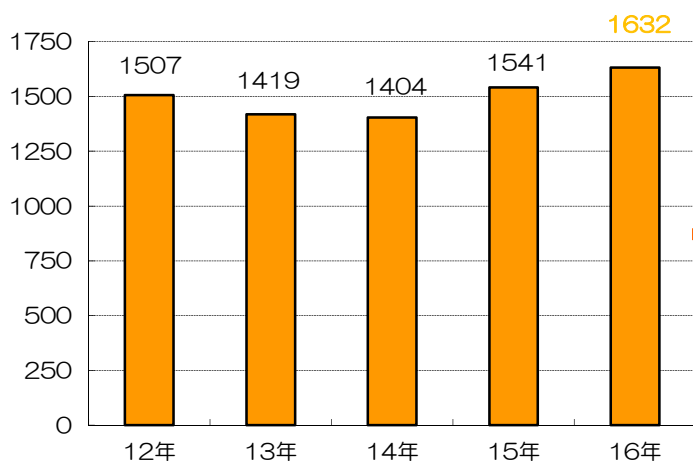
設立
所在地
資本金
従業員数
売上高
事業内容

1938年5月20日
愛知県豊田市下市場町3丁目30番地
4億5千万円
1,629名
1,632億円
自動車部品製造
【本社・下市場工場】
生産準備機能、営業・生産管理、
プレス・樹脂部品の開発・設計・
生産準備・製造
【高岡工場（足助作業所）】
樹脂部品の製造
【黒笹技術センター】
電子部品の開発・設計・生産準備・製造
【小島総合研究所】
自動車部品の研究および開発



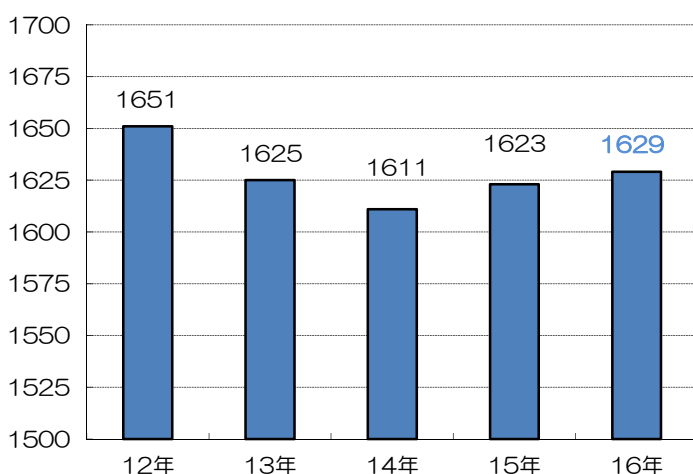
■売上高

(億円)

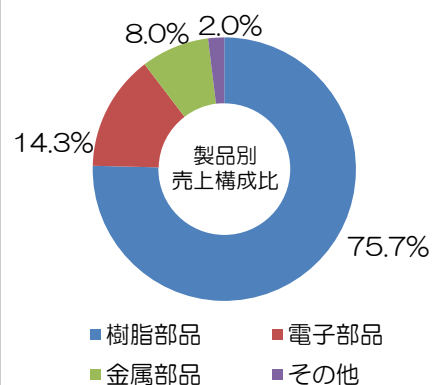


■社員数

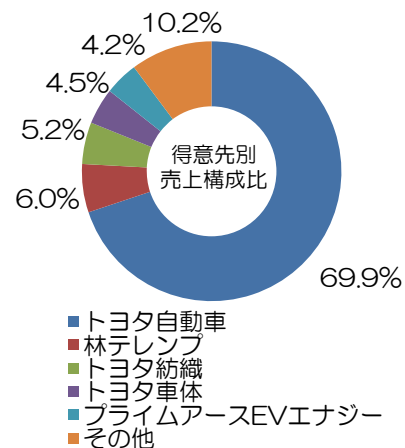
(人)



2016年製品別売上構成比



2016年得意先別売上構成比



会社概要

経営の基本的考え方

～人中心の経営～

地球環境資源を大切にしながら
企業としての付加価値を生み出す

物を大切にする、
生かす

堅実な基盤に立った
積極経営



地域社会との
融合と国際化

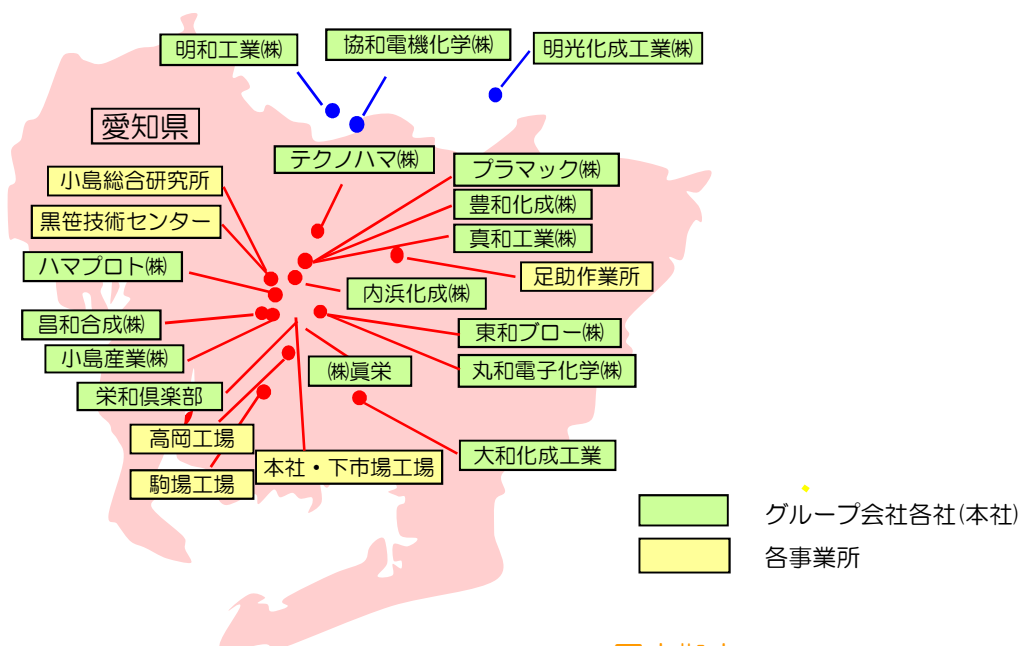
経営環境の変化に応じて
できる限りのことをしていく

分社分業の
小島グループ経営

製品・加工技術を分化し、専門的に
追求することで得意先のニーズに敏感に対応

信用第一に徹しながらも、鉄から樹脂、さらに
電気・電子部品へと積極的に事業を拡大

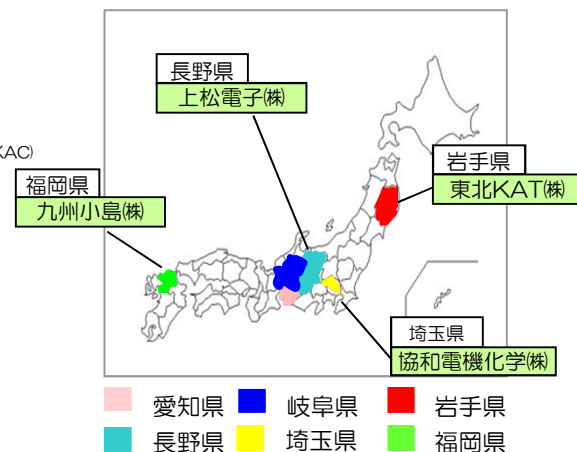
■グループ会社紹介

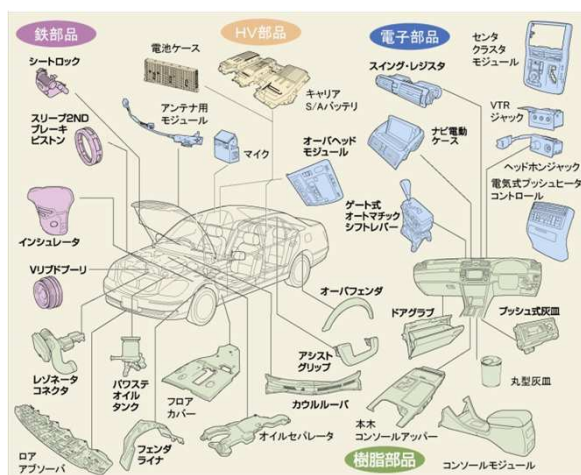


■海外拠点



■国内拠点





最も良いものを 最も安くタイムリーに

現在、オール小島では約1万2千点の製品を製造しています。今日、自動車部品業界はグローバル規模で競争が激化しており、当社はその競争に勝ち残っていかねばなりません。

当社は、お客様や得意先のニーズに応えるため、『最も良いものを 最も安くタイムリーに造る』といった、ものづくりの原点に立ち返り、新技術・新製品の開発に取り組んでいます。

■Best Hit Collection

充電専用USBジャック



機種判別機能を搭載し、あらゆる機種に対して2.1Aまでの急速充電を実現。未使用時には自動で閉まるパネ付きキャップやUSBコネクタ部分の耐久性の向上を図りました。

カウルルーバー



ガラスとルーバー合わせ部に新しい取り付け方法を設定。平坦にすることで、従来よりもワイパーの位置を下げ、外観向上とドライバーの視界向上につなげました。

コンソールボックス



得意先が車両を組み立てる順番の生産情報を社内でも共有し、その通りに生産・納入する「順序生産」を実施。両社の中間在庫を低減し生産性の向上に貢献しました。

P席オーナメント



得意先のニーズに応え、外観だけでなく触れた時の質感も追求。塗料に細かいビーズを含ませて凹凸を持たせることで「しっとり感」を演出しました。

環境側面



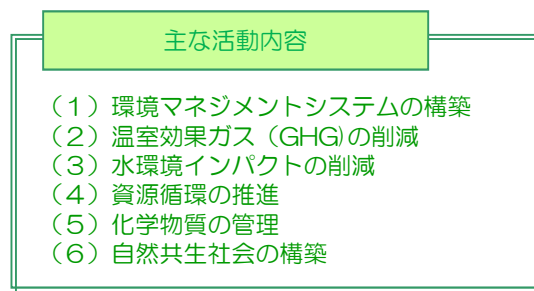
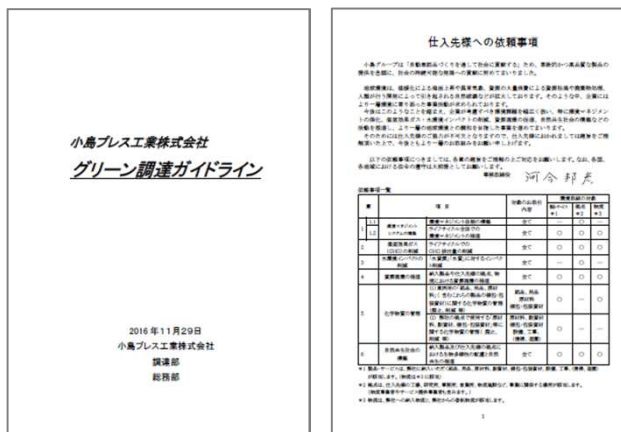
■品質・環境統合方針

私達は、「品質第一主義」を貫き、常にQ(品質)、C(コスト)、D(納期・スピード)の改善を追求し続け、お客様の信頼と満足を向上させると同時に、環境保護活動を積極的に展開して地域社会に貢献し、企業としての社会的責任を果たしてまいります。

- ◆鉄・樹脂・電子の自動車部品を製造する当社は、環境も品質の一つと位置付け、開発から設計・生産準備・生産・納入に至るまでの各段階で品質・環境を追求し、お客様や地域社会の満足を高めます。
 - ・お客様のニーズを的確に捉え、良いものをタイムリーに提供します。
 - ・環境影響を適正に評価し、環境負荷物質の低減、二酸化炭素排出量の削減など、環境保護活動を積極的に推進します。
- ◆ISO規格やお客様の要求事項、法規制、地域との協定等を満足・順守させます。
- ◆目標を定めてPDCAのサイクルを回し、これらの達成と汚染の予防、及び環境保護に努めます。また、目標を適宜レビューするとともに、統合(品質・環境)マネジメントシステムが効果的であり続けるよう、適正な監視・測定、内部監査、是正処置などを実施して継続的に改善を進めます。

※適用範囲 小島プレス工業(株)
(本社・下市場工場、高岡工場、小島総合研究所、黒笹技術センター、足助作業所)

■小島プレス工業グリーン調達ガイドライン



仕入れ先各社に対してより一層環境保全活動を推進していただくために、「グリーン調達ガイドライン」を発行し、各種活動に対する協力を依頼しました。今後も仕先とともに地球環境との調和を目指した事業を推進してまいります。

■ISO14001の取得



●外部審査

品質と環境を統合した「統合マネジメントシステム」として運用しています。全員参加のもと組織的・継続的な環境保全活動に取り組んでいます。

■ISO14001取得状況(オール小島)

小島プレス工業	2002年	9月
大和化成工業	2000年	8月
協和電機化学	2001年	1月
内浜化成	2001年	5月
小島産業	2001年	8月
豊和化成	2003年	4月
真和工業	2004年	12月
フレックスキャンパス	2004年	1月
ハマプロト	2005年	7月
丸和電子化学	2006年	9月
明光化成工業	2006年	11月
昌和合成(駒場工場)	2006年	12月
自動車部品栄和協同組合	2006年	12月
眞栄	2007年	8月
テクノハマ(本社工場)	2007年	10月
総和運輸	2009年	3月
東和フロー	2016年	1月

環境マネジメント

■環境目的・目標

当社は、①環境経営 ②環境に配慮した開発・設計 ③地球温暖化防止 ④水の適正利用 ⑤廃棄物削減と資源循環 ⑥化学物質リスク低減 ⑦自然共生社会の構築を主な軸として環境活動を実施しています。2017年度も引き続き高い目標を掲げ、活動を推進していきます。

活動項目と16年度実績		17年度計画（目標）
①環境経営	統合マネジメントシステム認証及びグループ支援	統合マネジメントシステム認証継続
②環境に配慮した開発・設計	環境に配慮した開発・設計件数 47件	目標：48件
③地球温暖化防止	CO ₂ 排出量 11,585t/CO ₂ 売上高あたり原単位 72.4g(千円)/CO ₂	目標：11,000t/CO ₂ 目標：71.7g(千円)/CO ₂
	CO ₂ 低減量 287t/CO ₂ （＊高岡工場にて大幅な設備更新） （削減事例） ・材料乾燥ホッパーの排熱回収 ・LED照明への更新 ・成形機の電動化、材料乾燥レス成形機の開発 ほか	目標：▲138.4t/CO ₂ （削減計画） ・成形機の電動化 ・照明のLED化 ほか
④水の適正利用	市水使用量 36,787kl 工業用水使用量 49,807kl	目標：市水使用量 35,700kl以下 工業用水使用量 48,810kl以下 ・雨水利用の拡大と井戸水の活用
⑤廃棄物削減と資源循環	廃棄物排出量 900/t	目標：800/t
	廃棄物処理費用の低減 7,443千円 （有価物化推進） ・異材質プラスチックの有価化 ・ダンプラ箱の有価化 ほか	目標：5,830千円 （有価物化推進） ・研究施設廃液処理の見直し ・異材質付きプラスチックの有価化 ・通箱内材の有価化
⑥化学物質リスク低減	化学物質の使用・排出・移動量の把握 総排出量 60,809/kg	目標：60,000/kg
⑦自然共生社会の構築	・外部団体環境保護活動への参加 ・地域環境保護貢献活動の模索	・こじま苑自然観察マップの展開 ・遊休地のビオトープ化検討

■グループ支援の実施



●法規関係帳票の確認

グループ各社における環境活動についても法規順守を徹底するために、各社を訪問して支援しています。現状の順守状況の確認だけでなく、順守のための仕組み作りを進めてまいります。

■環境教育の充実



●新入社員教育

2016年は新しく森の生き物たちをテーマにしたレクリエーションを教育内容に追加。環境活動の必要性を実感して各自の行動を見直すきっかけ作りをしました。

環境保全活動

■ オール小島で環境活動を実施



● グループ環境保全会議

グループ各社の環境活動を共有し、問題解決・解決レベルの向上につなげています。2016年は各社の巡回を強化し、問題点の洗い出し・改善事項の共有を行いました。



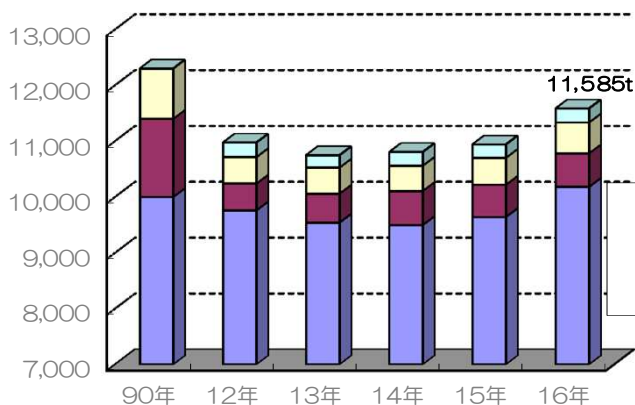
● 環境保全委員会（社内）

廃棄物やエネルギーだけでなく、騒音・大気・水質などのすべての環境影響について議論しています。設備の導入情報の吸い上げなど、法順守活動も実施しています。

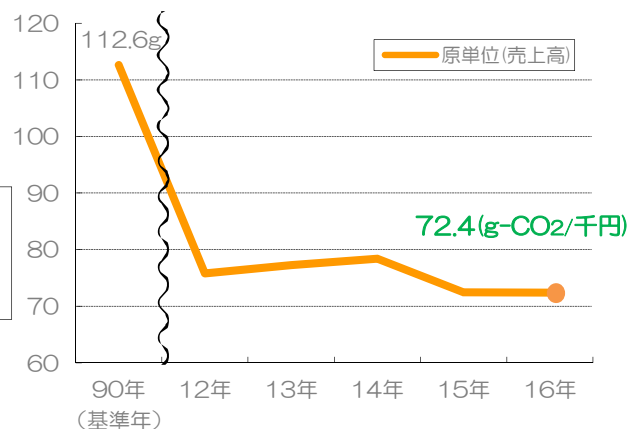
■ CO₂排出量の低減

当社では、地球温暖化問題を重く受け止め、CO₂排出量低減を生産・物流の両面から推進しています。2016年度は、環境保全委員会を中心に、節電活動の継続と生産工程における固定エネルギーのさらなる削減に取り組みました。

その結果として、CO₂排出量は、前年比5%増に抑えることができました。またエネルギー効率を表す原単位は向上しました。



売上高（千円）あたりエネルギー（CO₂）原単位



■ 太陽光発電システム



● 本社厚生棟屋上

データセンターの使用電力40kWhを補うことを狙いに、2010年から太陽光発電システムを稼働させています。

■ 省エネ支援会の実施

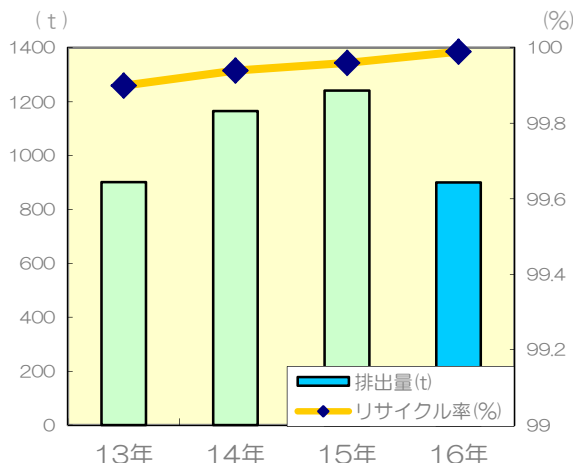


● 省エネ支援会

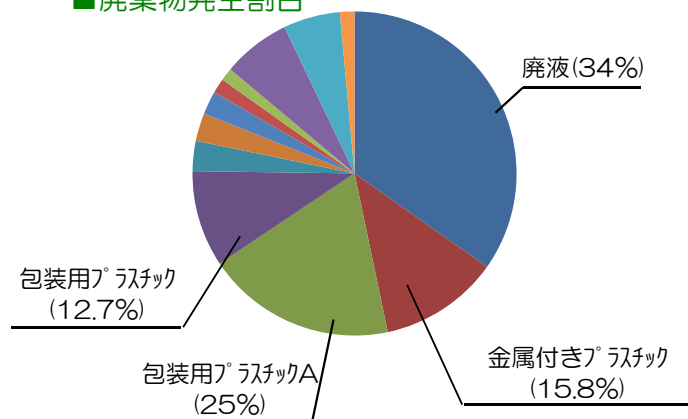
6月から外部有識者の協力を得て、小島グループ各社で省エネ活動を協議する機会を設けました。今までにない省エネ事例の発掘や人材育成に取り組んでまいります。

環境負荷の低減

■ 廃棄物発生量の推移



■ 廃棄物発生割合



廃棄物の発生量を低減するために、歩留りの向上や排出方法の見直しをしています。また高い割合を占めている廃液に関しては、配管の変更などを対策し、処理量の低減を図っています。

■ 処理・管理方法を監査



● 現地確認

優良認定の有無に関わらず、グループ各社と契約しているすべての中間処理業者の視察を年1回以上実施し、現地の状況や書類の管理状況などを確認しています。

■ 前日食事予約制による残食低減



● 食事予約システムの開始

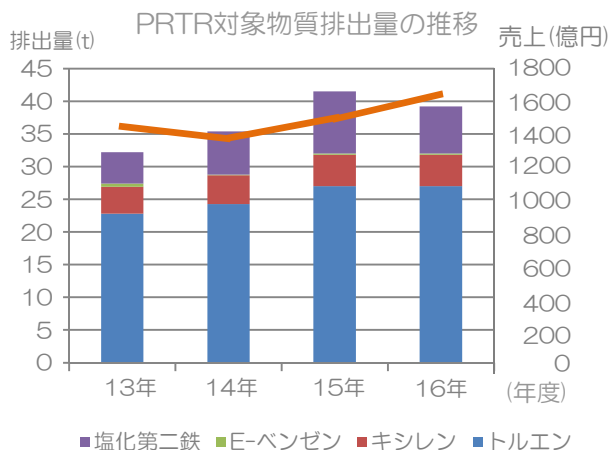
小島プレスでは食事の前日予約制による給食制度を取り入れており、必要な数だけ食事を作ることで、残食を減らす活動をしています。2016年より予約システムの導入を始め、より一層の残食低減につなげています。

環境負荷の低減(化学物質の低減)

■ 化学物質管理体制

日本では、人への有害性、環境蓄積性防止のために、「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」が定められています。同様の主旨でEUでは、環境負荷物質含有を禁止・制限するELV指令、RoHS指令などがあり、さらにREACH規制への対応が必要になってきました。

2016年は塗料の洗浄に使用している洗浄シンナーをPRTR対象物質の含有量が少ない材料へ変更することで排出量の低減活動を実施しました。



※2016年豊田市への報告資料を使用
(2015年4月～2016年3月)

■地域に根付く環境活動



●根川小学校 授業参観

地元の根川小学校5年生が総合学習の一環で、地球温暖化について学んでいます。一年間の活動報告にあたる授業参観では、小島プレス環境への取組みが紹介されました。



●とよたビジネスフェア

スカイホール豊田で開催され、当社の「共通EDI」と「小型水力発電」の展示を実施。また、工場におけるPepper活用事例について講演しました。

■豊田市の環境を保全する協定協議会

＜協定協議会とは＞

豊田市環境保全課を事務局とした36社の企業で構成されており、市内の事業者全体の環境に対する取り組み・技術の底上げを目指すとともに市民の環境に対する理解を深める活動を実施しています。

主な活動内容

- (1) 環境取組技術支援セミナー
- (2) 事例研究勉強会
- (3) とよたエコツアー
- (4) 工場見学会
- (5) 産業フェスタ
- (6) 外部講師による講演会
- (7) 環境教本作成部会



(廃棄物教本)



●環境取組技術支援セミナー

市内関連企業の環境取組のレベルアップや法令順守を図ることを目的として実施。豊田市・構成員を中心に環境活動の底上げを進めています。

■豊田市つながる社会実証推進協議会

＜つながる社会実証推進協議会とは＞

「技術と暮らしがつながる、他都市につながる、未来につながる」をコンセプトに豊田市つながる社会実証推進協議会の会員となり、AI/IOT、小水力W/Gに参画しています。

主な活動内容

- (1) 資源・エネルギーの地産地消
⇒小水力発電の実施（山間地拠点の活性化）
・官民データ連携・活用
⇒共通EDIの推進
- (2) 超高齢社会対応
- (3) 交通安全推進

■地域清掃の実施



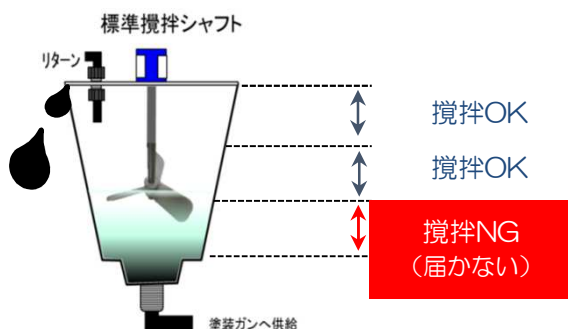
●地域清掃

毎月各工場の外周に沿って、清掃活動を実施しています。豊田地区の工場においては、豊田市のパトロール隊にも所属しており、地域と密着した環境保全活動を実施しています。

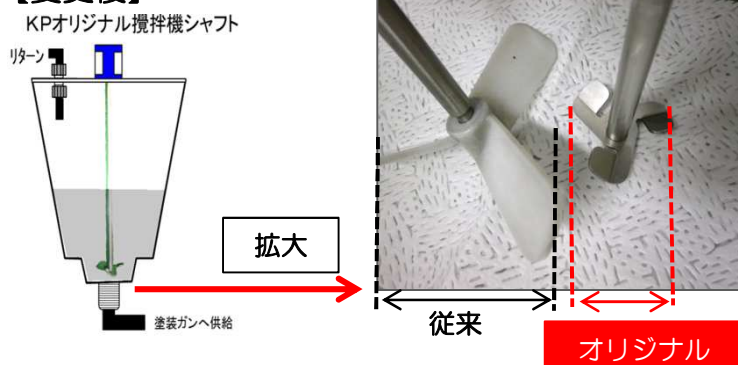
環境保全事例

■塗装効率の向上による不良低減

【変更前】



【変更後】



シャフトの羽根が大きく（塗料があふれる）、枝が短い（届かない）ため、高速回転させても均一に塗料を撹拌できな

吸い込み口元で高速撹拌ができるようにオリジナル撹拌シャフト（羽根を小さくし、枝を長くした）を製作。

【低減効果】

CO₂低減量：744.9kWh×0.3707（CO₂/kWh）÷1,000 ⇒3.36 t/年

■排熱回収によるエネルギー低減

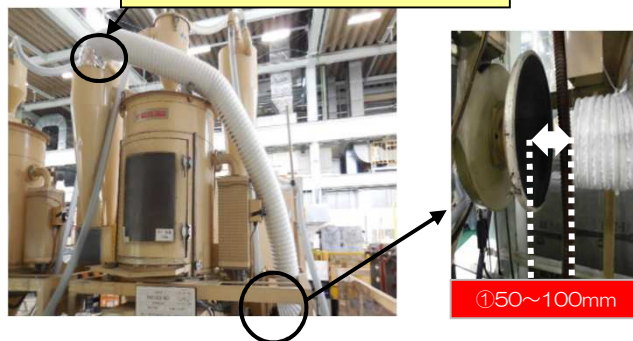
【変更前】



電気ヒーターで材料を乾燥後、排気口から熱を排気。

【変更後】

排気口にアルミテープで取付



不燃ダクトを利用し、排気した熱をダクトから給気口に戻すことにより、熱循環を可能にしました。

【低減効果】

電力低減量：（差） 2.95kWh - 2.06kWh = 0.89kWh/台 CO₂低減量：5,255kWh×0.3707/1,000 ⇒1.95 t/年
0.89kWh×24H×20,5D×12M =5,255kWh/年

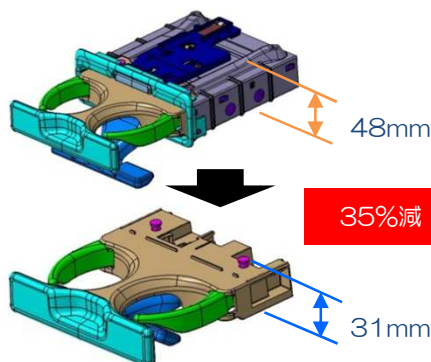
環境に配慮した設計事例

TOPICS

■リアカップフォルダ軽量化事例

トヨタ車体㈱第16回優秀事例選考会にて当社のリアカップホルダが最優秀賞を受賞しました。

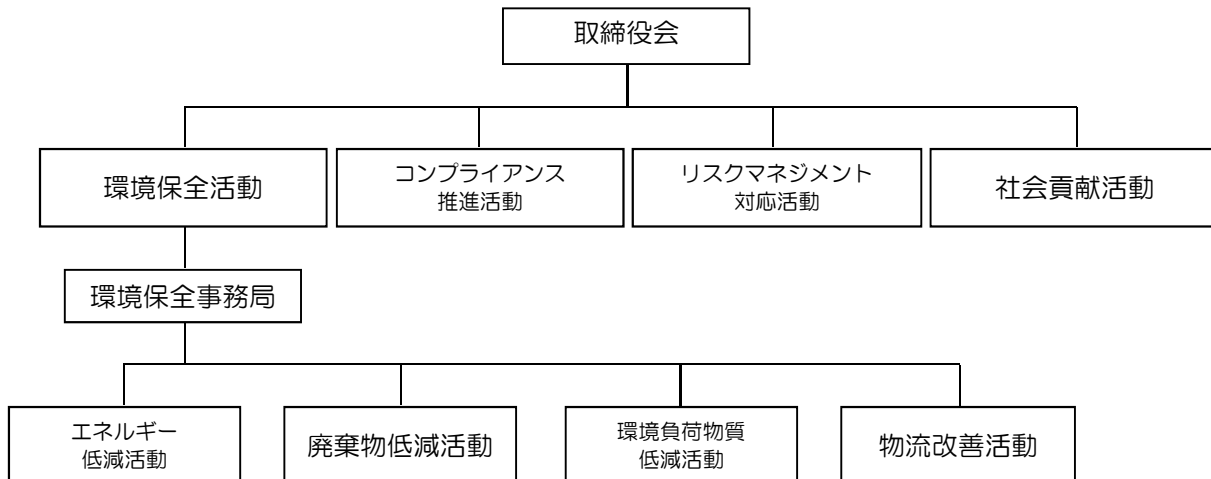
薄型化を目指すことで構成の大幅な見直しを実施し、薄型化、質量低減、部品点数低減を達成。他車型への汎用性を高めたカップホルダ開発を実現しました。





社会側面

CSR推進体制



リスクマネジメント

■防災訓練の実施



●防災訓練の実施

防火デーに合わせて安全確保、消火作業、避難訓練を就業時間に実施。地震速報装置の社内放送を聞いて、社員だけでなく、来客者や工事作業員、清掃員の方にもご協力をいただきました。

■安否確認システムの導入



●安否確認システムの導入

非常事態に備えて、社員の安否確認を迅速にできるよう、安否確認訓練を実施しました。返答が確認できるまで、自動で繰り返し発信（コール）し、無事を確認しました。

お客様とともに

■仕入先とともに品質の改善



●品質機能会議

当社の品質活動を理解していただき、2016年度の品質活動に対して大きく貢献した仕入先に対し、賞を贈りました。

■品質の意識を変化させ再生の第一歩



●品質管理大会

2016年の品質状況の活動を報告し、2017年の品質方針が示され、全社一丸で品質を守り抜く意識を高めました。

■中部品質管理大会



●2016年度中部品質管理大会

中部品質管理大会において、業務改善発表大会が開催されました。業務プロセスを改善して、仕事の質を高め、成果を上げた事例を加飾技術課の都築さんが発表しました。

■自工程完結 発表会の開催



●自工程完結事例の発表会

後工程やお客様に迷惑を掛けないようにすべての品質・工程は自部署で完結させるための活動を推進しています。

■未然防止による不良低減



●担当役員による品質総点検

問題を発生させる前の生準段階で不具合を振り返り、対策することで不良発生の未然防止に努めています。

■チーム小島の活動



●チーム小島 海外拠点長会議

海外各拠点も含めたグループ全社で情報共有を図っています。今後も『海外生産700万台』に向け、チーム小島一丸となって活動を進めていきます。

お客様とともに

■トヨタグローバル仕入先総会にて2賞受賞



●2017年トヨタグローバル仕入先総会

トヨタ自動車㈱の2017年トヨタグローバル仕入先総会が、名古屋国際会議場で開かれました。国内外から多くの仕入先が集まる中、当社は原価改善優秀賞、VA推進優良賞の2つの部門で受賞しました。

また、品質活動の年度目標達成に対して感謝状をいただきました。原価改善優秀賞においては37年連続受賞となりました。今後も得意先にとってなくてはならない会社であるために活動を続けていきます。

■得意先社員の受け入れ



●TMC調達部の新入社員来社

トヨタ自動車㈱調達部の新入社員12人が樹脂部品のサプライヤー代表として高岡工場を見学されました。新人研修の一環として毎年実施されています。

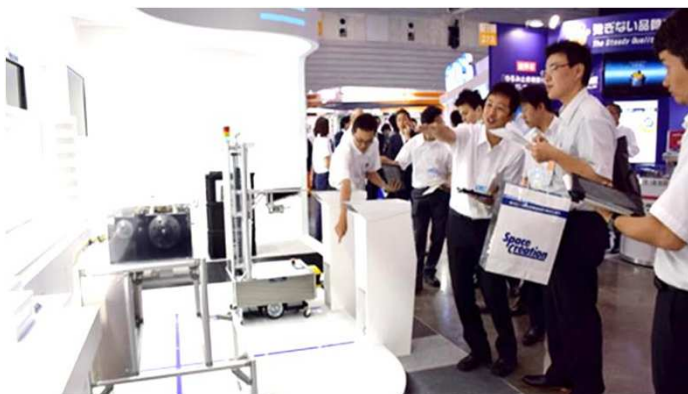
■こじま展の実施



●こじま展の実施

お客様に必要とされる製品を造り続けるために、展示場を社内にて、会社概要の紹介やプレゼンを実施しています。今後もシンプルで分かりやすい展示を目指してまいります。

■人とくるまのテクノロジー展への出展



横浜市のパシフィコ横浜で「人とくるまのテクノロジー展」が開催され、当社のリードタイム短縮を目指す『つながる工場』ブースに多くのお客様にお越しいただきました。今後も様々な場で人・車・環境が共存した技術を提案してまいります。

社員とともに

■ 社内の教育制度を強化



● 社長講話

教養ある人材を育成する場として「こじま教育センター」を開校し、内製で運営しています。開校式では、社内の指導員に対して小島社長が講話しました。

■ ディーラー研修の実施



● ディーラー研修報告会

新入社員5名が、ユーザー目線を意識した仕事ができるよう、自動車ディーラーで、実際に店頭に立ち車を販売する研修を実施しました。10月には研修報告会をしました。

■ 本社厚生棟リニューアル



● 厚生棟食堂

福利厚生の充実や食堂の動線見直しを図り、リニューアルしました。テーブルやイスは間伐材で製作したものを使用。デザインや配置には女性スタッフの意見が反映されています。

■ 福利厚生施設の活用



● 第43回オール小島やわらぎのつどい

オール小島の社員やその家族約6,000人が参加。玉入れなどの競技をはじめ、太鼓部による大太鼓演奏やこじまこども園のマーチングバンドが会場を盛り上げました。

■ 技能五輪大会への挑戦



● 技能五輪大会

第54回技能五輪全国大会（機械製図職種）に、人事課の山本さ吉本さん、山内さんが愛知県代表選手の一人として出場しました。今後も世界レベルで活躍できる人材育成に努めていきます。

■ 海外への配信スタート



● DAT（タイ）への配信

全員朝礼やオール小島安全大会などの情報が国内だけでなく海外に向けても一斉配信が可能になりました。これによりタイムラグがなく情報を共有することが可能になりました。

社員とともに

■健康管理活動



●健康管理センター(企業内診療所)

生活環境の改善を目的とした禁煙や運動の指導、メンタルヘルスの向上などの指導をしています。今後も安心して働ける企業作りを進めていきます。



●ヨガ教室の開始

こじま健康管理センターでは、エクササイズや太極拳教室、初動負荷マシンを利用し、健康増進を図っています。今年度は、ヨガ教室をスタートし、運動不足解消に役立てています。

■健康増進月間



●アンガーマネジメント教育

9月を健康増進月間とし、従業員の健康意識高揚を図っています。今年度は、衛生管理者を対象に「アンガーマネジメント教育」を実施。怒りとうまく付き合う手法を学びました。



●黄綬褒賞を受賞

金型の立ち上げや保全業務で、成形不良や金型不具合などの改善に貢献したことが高い評価を受け、高岡部品部製造技術課の沖光さんが、春の黄綬褒章を受章しました。

■リスクアセスメント勉強会



●リスクアセスメント勉強会

労働災害の未然防止を図るため、化学物質リスクアセスメント、設備リスクアセスメント勉強会を開催し、化学物質使用計画や設備構築時の遵守事項について学びました。

■働き方検討委員会

〈働き方検討委員会とは〉

組合員を初めとした従業員がより良い環境で働くことができるように、新しく働き方検討委員会を設置して、活動を開始致しました。

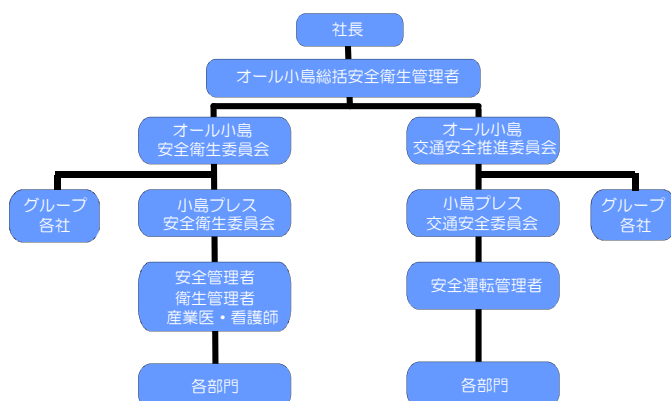
今後も労使で一体となり活動を推進してまいります。

主な活動内容

- (1) 有休取得の促進
 - ・記念日休暇
 - ・エンジョイ休暇
 - ・ゆとりぶる休暇
- (2) 「定時の日」の促進
- (3) 残業時間の低減
- (4) 職場の声の吸い上げ

社員とともに

安全 組織図



■ トップによる安全点検



● 社長による安全点検(各事業所年2回)

トップが現地現物で各職場を確認し、安全衛生活動の進捗状況の確認・指導をすることで、安全意識の徹底を図っています。

■ オール小島安全衛生委員会



● 委員長(担当役員)による安全点検

災害の種類ごとにテーマを決め、テーマ別でのグループ研究会をすることで、より迅速に災害対策をできるよう努めています。

■ オール小島交通安全推進委員会



● 社内展示による安全意識の向上

社内で事故事例の展示を実施するなど、個人の安全への意識を向上させる活動をしています。今後も事故の発生原因などを分析して、事故撲滅のための活動を行います。

■ オール小島安全大会



● オール小島安全大会

中央労働災害防止協会の鈴木様をお迎えして講演会を実施するなど、安全意識を高める活動をしました。また、安全大会の様子はグループ全社にライブ配信され、全社で安全への決意を固めました。

■ オール小島交通安全大会



● オール小島交通安全大会

豊田警察署の水野署長・柴田課長をお迎えし、講演をしていただきました。事故事例の報告を聞き、出席者は安全運転の大切さ改めて認識しました。

■中国・青海省から技術研修生を受け入れる



●現場実習

中国青海省から研修生の受け入れを始めて今年で10年目。研修生は技能・技術の習得に積極的に挑戦しています。2年間の教育を終えて、帰国後も活躍しています。



●研修成果報告会

中国駐名古屋総領事館の丹増朗傑副領事をはじめ多くの来賓を迎え、第10回日本語弁論大会を開催しました。技術・技能だけでなく、日本語の習得にも取り組んでいます。

■各国の文化交流を深める



●青海日本文化交流のつどい

当日は1300人におよぶ参加者が集まりました。日本からは南山大学の学生も参加し、青海省の学生との文化交流を楽しむなど相互理解を深めました。

■アジア各国から留学生の受け入れ



●工場見学

アジア各国より留学生を受け入れ、こじま留学生寮を提供しています。この受け入れは帰国後も国境を越えて交流が続くことを願って実施されています。

■新入社員との異文化交流



●研修寮での共同生活

文化交流で海外研修生との距離を縮めるため、新入社員と海外研修生が共同生活をしました。食事をともにし、言語を教え合うなどして文化交流を図っています。

■演武の披露



●やわらぎのつどい

第43回やわらぎのつどいにてKATI・DAC・アライアンスのEcoplasの社員による民族舞踊を披露するなど、グローバルを肌で感じられる大会になりました。

地域社会とともに

■ 地域住民との交流



● 地域観桜会

地域観桜会や納涼盆踊り大会などのイベントを開催しています。地域住民の方々と交流を深めています。



● 地域清掃

地元神社の地域清掃にも寮生を中心に積極的に参加し、町を自主的にきれいにしている活動をしています。

地域との交流活動(抜粋)

- ・ 自社活動
 - (1) 地域清掃
(各事業所周辺および地元神社)
 - (2) 防犯活動意見交換会
 - (3) 防犯パトロール
 - (4) 納涼盆踊り大会
 - (5) 観桜会
- ・ 地域のイベントに参加
 - (1) ふれあいフェスティバル
 - (2) 朝BAKE

■ こじま福祉会の活動



● 豊田市さくらワークス

豊田市とこじま福祉会の官民一体の身体障害者通所授産施設さくらワークス(現在の豊田市さくらワークス)では、施設生活訓練や就労訓練を中心に活動をしています。



● 自立と感謝のつどい

感謝の気持ちを示す「第13回自立と感謝のつどい」を、豊田市さくらワークスにて開催しました。式典には、愛知県の堀井奈津子副知事や豊田市の太田稔彦市長をはじめ、多くの来賓の方が参加されました。



● こじまこども園

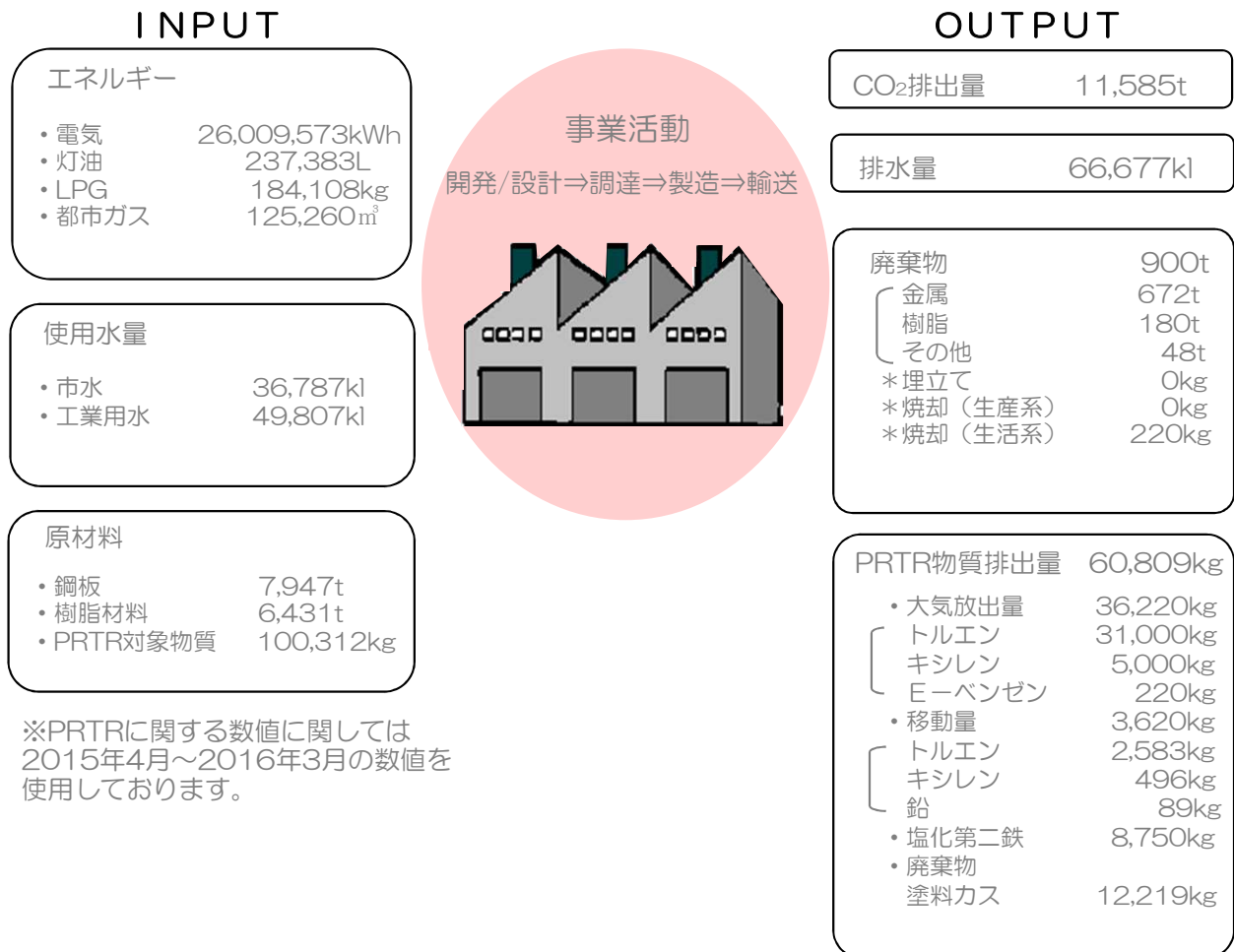
『子どもにとって最高の安心・安全』をコンセプトに、新園舎が完成。木造平屋建、屋根はチタン瓦(小島プレス技術支援)を使用。建材には地元の木材が使用されています。



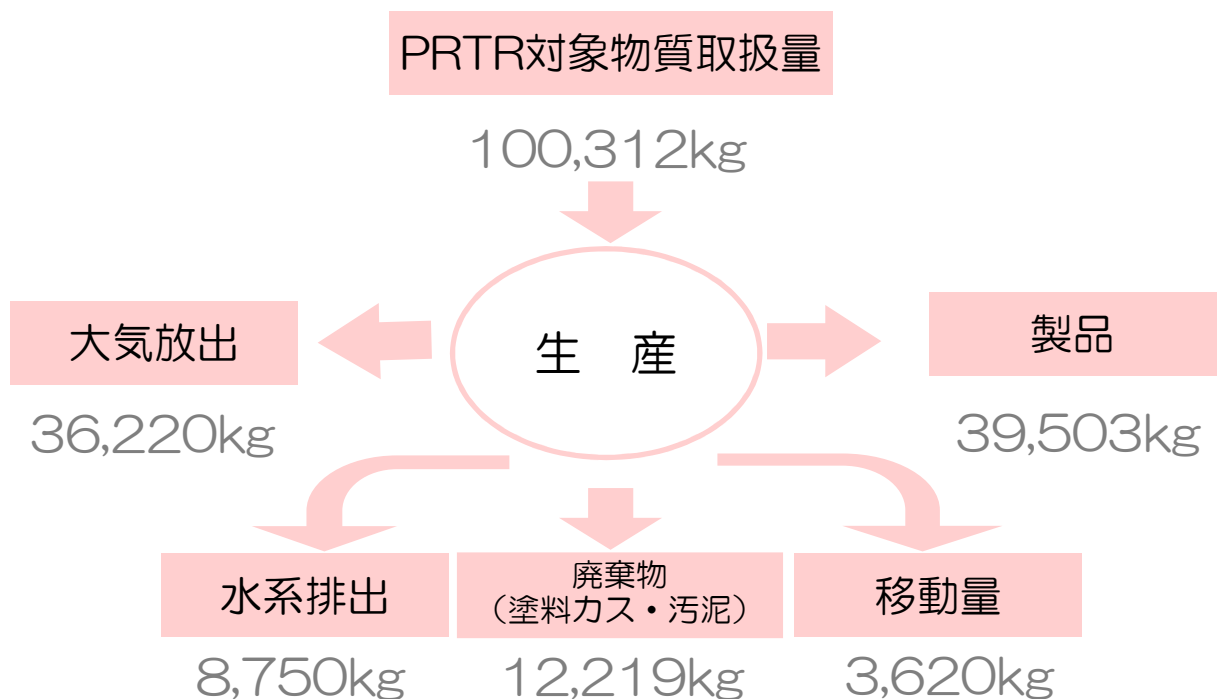
● シートベルト着用の呼び掛け

豊田警察署と地域住民、こども園園児、当社の新入社員が一緒に、運転者に対して、園児手作りのチラシを渡してシートベルト着用を呼び掛けました。

■物質・エネルギー収支



■PRTR対象物質収支



■環境測定データ

【本社・下市場】

1. 大気

設備名	項目	基準値	測定値	評価
吸収式冷温水機	ばいじん排出量	0.3g/Nm ³	実績なし（5年毎）	—
	窒素酸化物濃度	180ppm	39	○
吸収式冷温水機	ばいじん排出量	0.3g/Nm ³	実績なし（5年毎）	—
	窒素酸化物濃度	180ppm	42	○

2. 水質

項目	基準値	測定値		評価
		最大	最少	
PH	5.7~8.7	8.1	6.2	○
BOD	300	120	19	○
SS	300	60	1	○
ルマルキサ （鉱油）	5	0.5	0.5	○
ルマルキサ （動植物油）	30	7.6	0.5	○
亜鉛	2	1.3	0.01	○
窒素	150	6.8	0.3	○
燐	20	0.67	0.02	○

3. 騒音（敷地境界全13か所）

時間	基準値	測定値（最大）	評価
朝	55db	54	○
昼	60db	56	○
夕	55db	51	○
夜	50db	50	○

4. 振動（敷地境界全13か所）

時間	基準値	測定値（最大）	評価
昼	65db	49	○
夕	60db	45	○

■環境測定データ

【高岡】

1. 大気

設備名	項目	基準値	測定値	評価
吸収式冷温水機	ばいじん排出量	0.3g/Nm ³	0.003	○
	窒素酸化物濃度	180ppm	73	○
吸収式冷温水機	ばいじん排出量	0.3g/Nm ³	0.004	○
	窒素酸化物濃度	180ppm	81	○

2. 水質

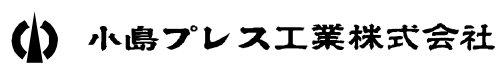
項目	基準値	測定値		評価
		最大	最少	
PH	5.7~8.7	7.9	6.7	○
BOD	300	9.9	0.5未満	○
SS	300	7	1未満	○
ルマルハキソ (鉱油)	5	0.5未満	0.5未満	○
ルマルハキソ (動植物油)	30	—	—	—
亜鉛	2	0.35	0.05	○
窒素	150	42	13	○
燐	20	3.1	0.28	○

3. 騒音（敷地境界全13か所）

時間	基準値	測定値（最大）	評価
朝	55db	52	○
昼	60db	56	○
夕	55db	50	○
夜	50db	50	○

4. 振動（敷地境界全13か所）

時間	基準値	測定値（最大）	評価
昼	65db	42	○
夕	60db	47	○



発行：2017年4月1日

連絡先：安全環境推進部 安全環境課
TEL:0565-34-6530